

乾燥地の暮らし

温帯の湿潤な気候のもとで暮らす私たちにとって、乾燥地は、遠い世界に感じられます。緑に乏しい広漠とした風景は、一見すると、私たちを寄せ付けないような雰囲気があります。乾燥地の村々を歩いてき回ると、そんな印象とは正反対の、生き生きとした暮らしの風景が広がっています。





みんなで農作業

雨季の始まりを告げる何度かの雨のあとで、村人は畑に向かう。
トウジンビエの種を播き、芽が出始める頃に
「押しスキ」と呼ばれる伝統農具で行われる除草作業。
大人も子どもも一生懸命だ。

📍 ニジェール・テッサウア市近郊

📅 2016年6月

📷 田中樹



夕暮れ、家路を急ぐ

畑から収穫後のトウジンビエの稈を運ぶ女性たち。
日が傾き始めてきたので、
夕食の準備のためちょっと早く歩を進める。

📍 ブルキナファソ・北部

📅 2011年1月

📷 田中樹



ラクダで移動中

砂丘の麓で一休みする男たち。

柔らかく足を取られやすい砂の上を移動するには
ラクダが一番便利。

📍 スーダン・中部

📅 2013年12月

📷 田中樹



井戸の順番待ち

村に井戸が一つしかないので
井戸の周りは順番待ちの人びとでいっぱい。

📍 ブルキナファソ・ウダラン県

📅 2011年1月

📷 田中樹



沙漠の宿

ナミブ沙漠に造られた観光客向けのホテル。
周辺の風景に溶け込むように、
同じ色の岩を使い、屋根を低くしている。

📍 ナミビア・ナミブ砂漠

📅 2016年9月

📷 田中樹



村はずれのお家

スーダンの乾燥地を車で移動しているときに見かけた
質素なつくりの家屋。
誰がどのような暮らしをしているのだろう。

📍 スーダン・中部

📅 2013年12月

📷 田中樹



噴出する水蒸気を集め 飲み水をつくる

地表に噴出した水蒸気を集めて水をつくる装置。
無味無臭の普通に飲める水だった。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年6月

📷 田中樹



放棄されたマサイの集落

マニャッタと呼ばれるマサイの人びとの伝統的な家屋。
壁は牛糞で塗り固められている。
地熱発電開発による立ち退きで誰もいなくなった集落。
修理されることもなく雨風を受けてゆっくりと朽ちてゆく。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹



白い伝統

白い塊はチャド湖から持ってこられたという塩の塊。
北ナイジェリアに起源をもつハウサの商人が
商品として取引をしてきました。

📍 ブルキナファソ・ロルム県

📅 2010年2月

📷 清水貴夫

フン集め

草原に散らばっている
家畜のフンは
貴重な燃料。

📍 モンゴル・ドントゴビ県

📅 2013年8月

📷 手代木功基





牧畜民の家

牛フン、泥、モパネの木でできている家の中は
意外と涼しい。

📍 ナミビア・クネネ州

📅 2007年3月

📷 手代木功基



赤い泥は涼しい衣類代わり

暑さ厳しいナミビアで快適に暮らしているヒンバの女性。

📍 ナミビア・クネネ州

📅 2007年3月

📷 手代木功基



老人とナツメヤシ

イン・ベルベル・オアシスの最長老が、
立ち止まって老木を見上げた。

📍 アルジェリア・アドラール県

📅 2010年10月

📷 石山俊

収穫中

ナツメヤシの収穫期。
熟練した収穫人は引っ張りだこ。

📍 アルジェリア・ビスクラ県

📅 2015年11月

📷 石山俊